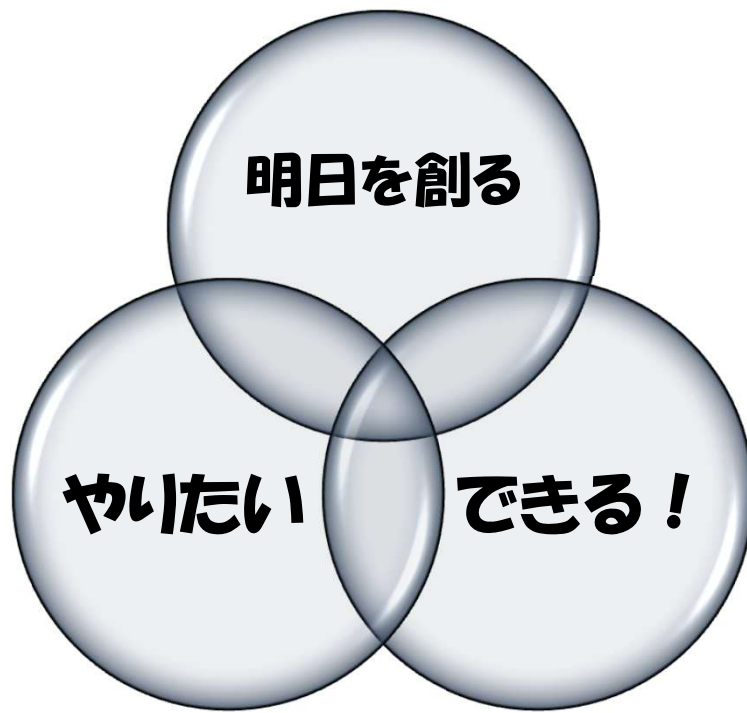


明日を創る Create Our Future



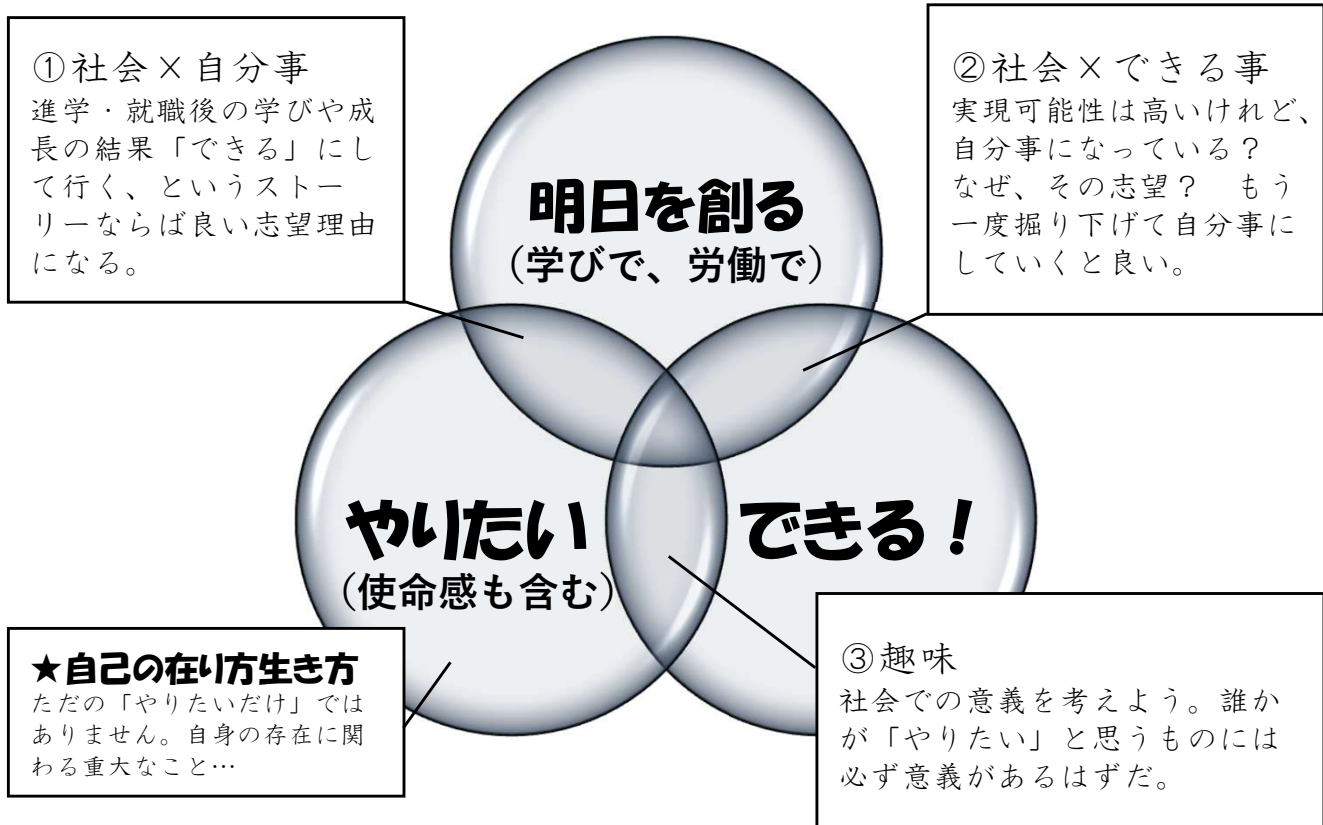
目次

- 1. マインドセット編 2
- 2. 準備編 4
- 3. 出願書類編 7
- 4. 面接編 19
- 5. 補足 22

北海道登別明日中等教育学校
進路指導部

6回生 組 番 名前

1. マインドセット編



「大学入試改革」は高等学校での教育を改善するために、大学入試も変えていこうという考え方で進められています。これまで文科省が学びの目標を示しても大学入試が知識偏重のまま変わらなかったため、多くの高校の先生方も高校生も学び方を変えませんでした。ならば、大学入試から変えてしまおうというわけです。

そのため、各大学のアドミッションポリシー（AP）や選抜方法を文科省が厳しくチェックするようになりました。国公立大学はもちろん、私立大学についても同様です。筆記試験だけでは、学力をバランスよく評価することができません。知識・技能だけでなく、思考・判断・表現する力も見ようとすると、面接やグループワークに行きつくのです。近年、選抜方法が多様化しているのはそのためです。

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が**自己の在り方生き方**を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

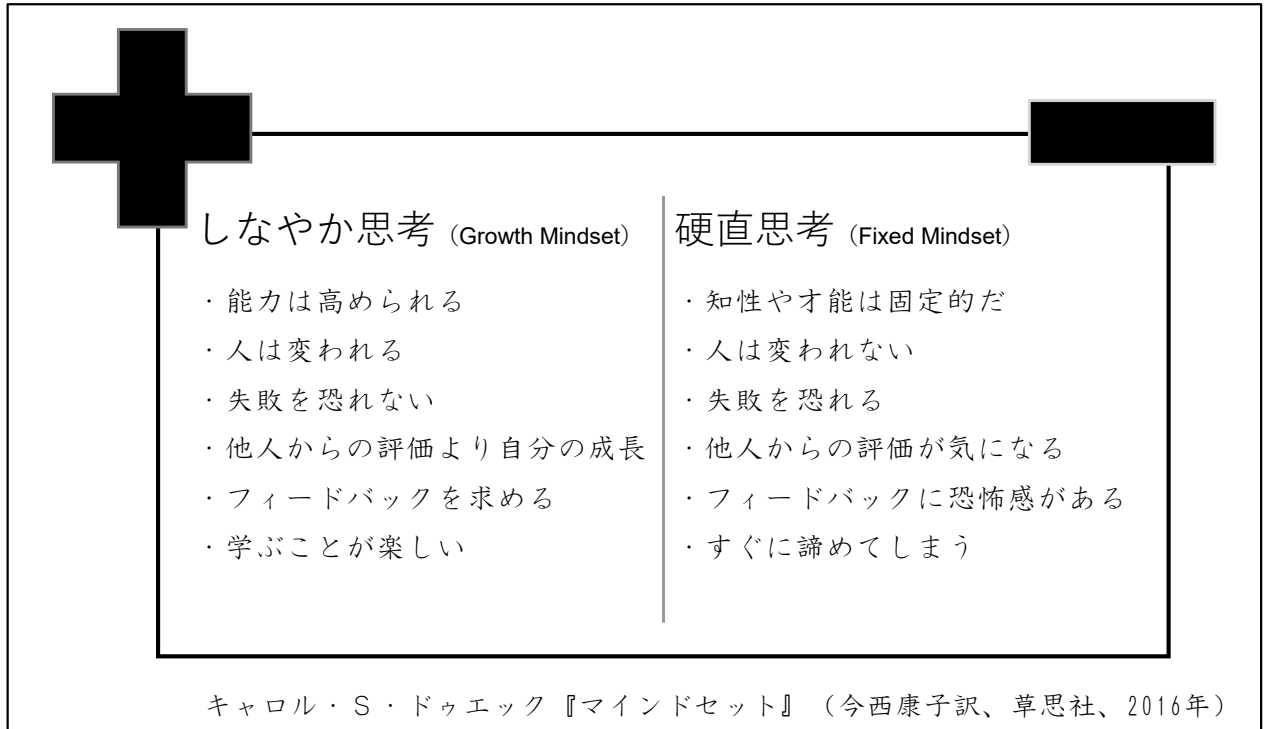
（「高等学校学習指導要領」総則（文部科学省、2018年告示）
自己の在り方生き方を考えることについては、次の三つの角度から考えることができる。一つは、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、**社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきか**などを考えることである。

（「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」（文部科学省、2019年））

文科省は、大学の選抜方法が教育法規や学習指導要領に沿ったものかどうかを確認しています。最新の学習指導要領では「自己の在り方生き方」があらゆる場所に明記されるキーワードとなっています。当然、大学の選抜も「自己の在り方生き方」を重視する方向にシフトして行きます。

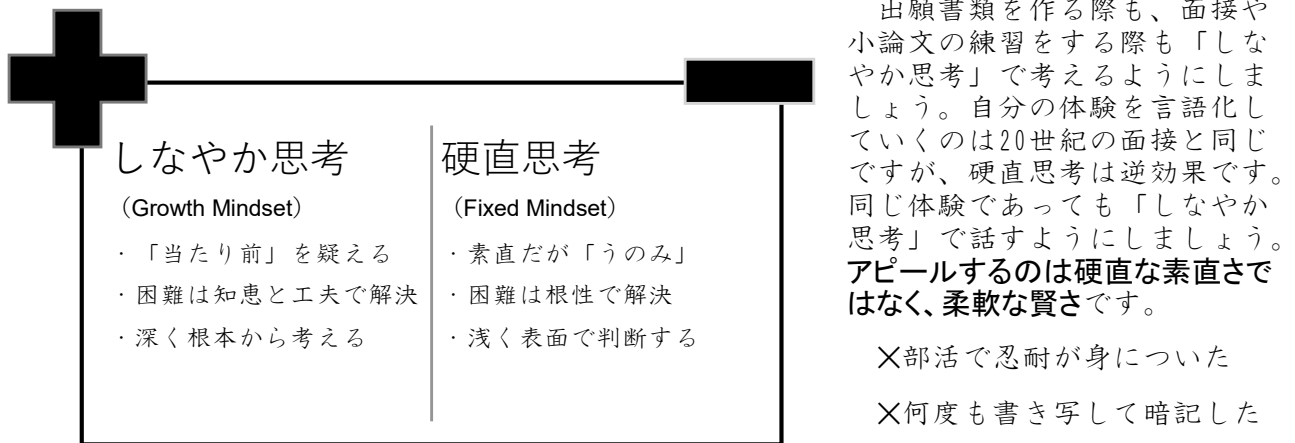
ここで注意してほしいのは、「自己の在り方生き方」がただの欲求ではない点です。例えば、「ゲームの仕事をしたい」「スイーツの仕事をしたい」では不十分です。自分がどのように社会（世界）と関わり、社会（世界）の中で何を実現したいのか。つまり**「明日を創る」視点が必要**、言い方を換えれば**「明日を創る」視点があれば**ゲームもスイーツも**志**になりうるのです。

(1) しなやか思考 vs. 硬直思考



20世紀の工業社会（Society 3.0）では、得た知識や技能を長い期間使うことができました。労働のあり方も、マニュアル通りに行うものがほとんどでした。そのため、教育も「正しくマニュアルを理解し、その通りに職務を遂行できる人材」を育成してきました。教科の学び（そして高校入試や大学入試も…）が暗記重視だったのもそのためです。

しかし、VUCA（Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」）と言われる近年の状況下では、既存の知識・技能の複製・反復だけでは社会に対応できなくなってしまいました。自分の頭で思考・判断・表現し、既存の知識や技能を活用して新しいものを生み出す力が求められるようになりました。大学や企業も、このような状況を踏まえているので、欲しい人材像も変わってきました。求められているのは、「はい」しかない「素直なだけの人材」よりも、「当たり前を疑える人材」です。



(2) あけたま（アケビ生）の強み

強み 気をつけてね

- よくしゃべる
- 相手の話も聴けている？ 一方的語りはコミュニケーションではありません
- 批判的
- 批判に根拠はある？ 根拠のない批判はただのいちゃもんです
- 課題探究
- 探究はがんばった？ 浅い探究をアピールしたら逆効果です

2. 準備編

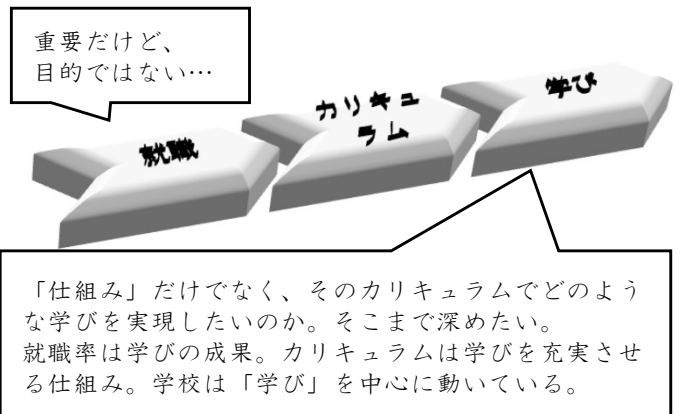
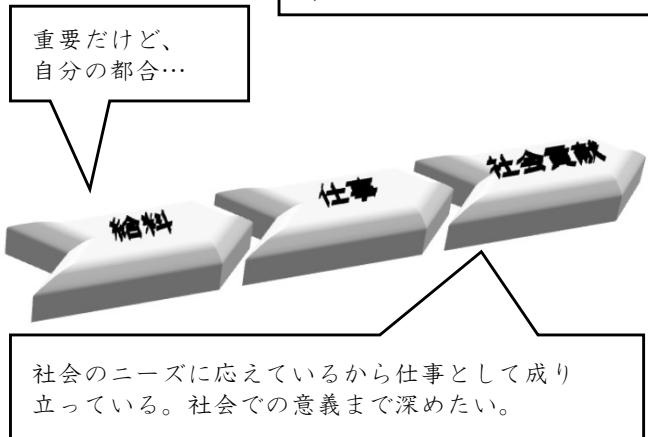
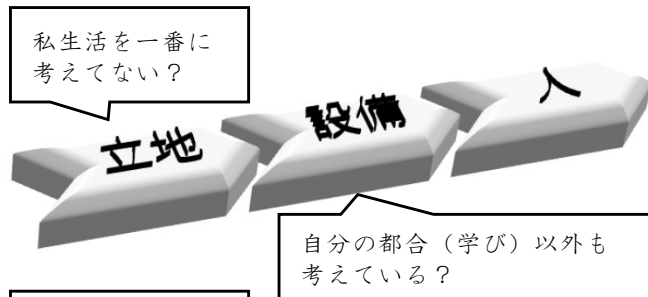
(1) 志望先を知る

就職試験には必ず面接があります。採用する側は、一定期間（もしかしたら定年まで）一緒に働く人をこれから決めるのですから、どんな人が知りたいわけです。もし合わない人を採用してしまったら、どちらにとっても不幸です。入試の面接も同じです。受験生がその学校の学びに合っているかを見定めます。就職も入試も、「探ってください！」とアピールする高校生たちを面接官が見定めて採否を決めるのは同じです。

多くの候補者の中から添い遂げる相手を選ぶ。求愛行動に似ていますね。就職試験の場合は企業にとっても重大事なので、候補者たちの愛が不十分な場合は『竹取物語』のように「合格者なし」もあり得ます。**あなたたちは求愛する側**です。どれだけ相手を愛しているかアピールして認めてもらわなければなりません。

志望先を愛するためには、まず志望先を知ることから始めます。パンフレットやインターネットには多くの情報があふれています。ただの情報として集めるのではなく、相手を愛することを意識して情報を吸収していきましょう。自分の都合だけで相手を選んでいませんか？ 相手と一緒に「明日を創る」ことを考えていますか？

	機関の性質	補足
大学・短大	研究機関	就職のための機関ではない
専門学校	職業人養成機関	手に職はつくが、それ一本（専門）
民間企業	営利団体	社会の需要から利益を生み出す
官公庁（公務員）	非営利	社会に必要なだが利益が出ない事業（民間企業ができないこと）を行う



<見学のすすめ>

- 設備よりも人を見る・人と話す

人材育成に**自信がある学校ほど学生さんを前面に出す**。研究室に行って先生や大学院生と話してみるのもよい。

- 学び・社会との接続を見る・質問する

入試のことは調べればわかる。その場に行かないと得られないものを得てください。

文科省は、大学の選抜方法が教育法規や学習指導要領に沿ったものかどうかを確認しています。最新の学習指導要領では「自己の在り方生き方」があらゆる場所に明記されるキーワードとなっています。当然、大学の選抜も「自己の在り方生き方」を重視する方向にシフトして行きます。

《先生の著作を読む》学校案内やwebサイトの情報は、先生方の研究のほんの一部でしかありません。多くの先生は、過去に発表した研究成果が認められて大学・短大の先生になっているので、探せば高校生でも成果物を入手できます。

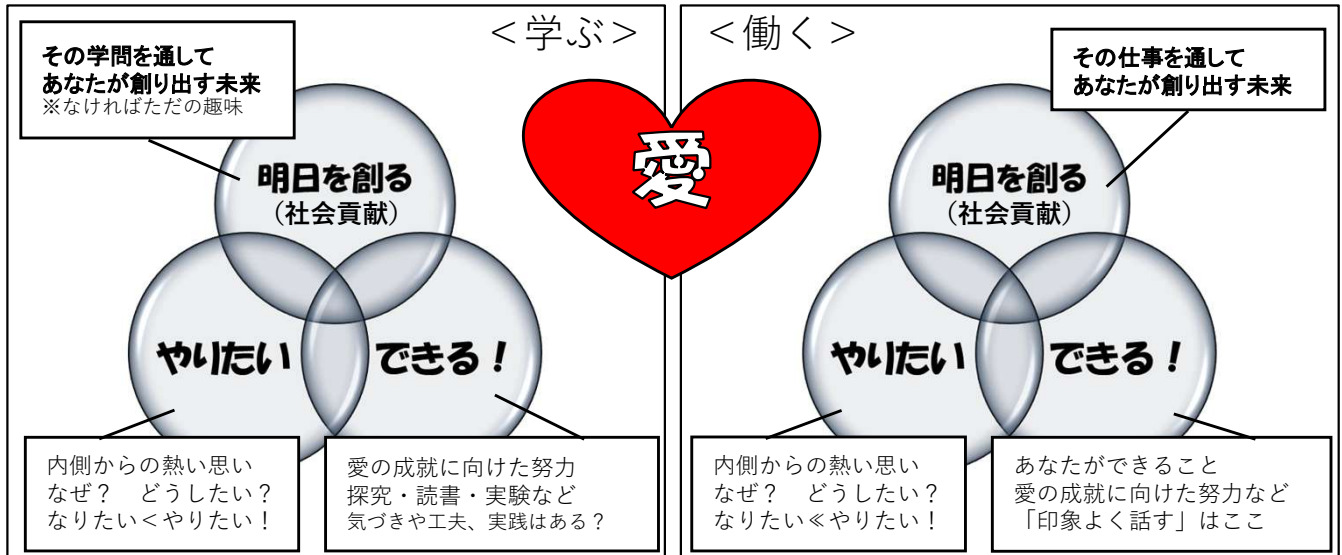
○論文検索サイト cinii (サイニー) <https://cir.nii.ac.jp/>、
 googlescholar (グーグルスカラー) <https://scholar.google.jp/>

◎市販されている (Amazonでも買える) ものは、**新書や選書、ブックレット**が比較的安価で内容もわかりやすい。

(2) 学ぶ準備・働く準備

「明るくはきはき話す」「質問に適切に答える」これらはできて当たり前です。印象は良いに越したことはありませんが、印象だけで決まるほど甘くはありません。上級学校であればこれからの数年間、企業であれば長期間あなたと一緒に過ごすのです。添い遂げる相手を印象だけでは決めませんよね。

では、何を見ているのでしょうか。抽象的に表現すると、志望先で活躍する準備がどの程度できているかです。進学であれば学ぶ準備、就職であれば働く準備ですね。



「やる気があります」は誰でも言えます。では、どうやって意欲の有無を判断するのでしょうか? まず**知っているかどうか**です。でも、求愛するライバルたちも相手のことは知っています。知っているくらいは当たり前ですね。次に、**一緒に創る未来を考えているかどうか、考えの深さ**です。当然ライバルたちも考えているでしょう。口先だけの表面的なイメージではなく、深く説得力ある未来をイメージしたいところです。そのためには、**相手のことやその周辺のことを研究**しなければなりません。自分のことを理解してくれない人の求愛は受けられませんよね。

そして、最後は**行動を起こしているか**です。もし、本気で「ロケットを作りたい」と思っていたら、とっくに模型のロケットを自分で作っているはず。実験して失敗も経験しているはず。一緒に創る未来を本気で実現するのであれば、高校時代にとっくに行動を起こしていますよね。学びたいのであれば本くらいは読んでいるだろうし、働きたいのであれば会社に貢献する準備の一つも進めているはず。

8. 子ども が主体的に取りかかり、大人と一緒に決定する	参画の段階
7. 子ども が主体的に取りかかり、子どもが指揮する	
6. 大人がしかけ、 子ども と一緒に決定する	
5. 子ども が大人から意見を求められ、情報を与えられる	
4. 子ども は仕事を割り当てられるが、情報は与えられている	
3. 形だけの参画	非参画
2. お飾り参画	
1. 操り参画	

高校生自身が**主体的に「行動を起こす」**といっても、さまざまな形態があります。地域で企画されるイベントに参加してみたり、ボランティア活動をするという方法もあります。キャリア課題探究の一環として何かを仕掛けるのもいいでしょう。

このときの主体性を測る指標として「参画のはしご」があります。**ボランティアなど既存の活動に参加するのも、きっかけとしては有効ですが参画のレベルは高くありません**。体験だけで終わらず、自分が企画するならばどうするか、何か課題はないか、考えると良いでしょう。これから創る「明日」が見えてくるかもしれません。そして、実際に行動を起こせば「参画」の段階に入ります。

自分たちで行動を起こせば(7~8)新たな課題が見えてきます。「明日を創る」までの過程(進学先や就職先で何をすべきか)が明確になれば、そしてそれが実際の行動に基づいていれば、**愛の証**になりませんか?

ワークシート①（志望分野をしなやかに「愛」す）

志望が決まっている人も決まっていない人も、まずは自分の意識を見える化してみよう。なぜそこを目指すのか、深掘りすることで進路先でやるべきこと、今やるべきことが見えてくる。動機の根本までさかのぼれば、違う可能性を発見できるかもしれない。例えば「命を救いたい」が動機の根本だとすれば、医師以外にも命を救う道が見つかるかもしれない。

これまで「愛」だと思っていたものが、薄いことに気づいてしまうかもしれない…。そういう場合は、気持ちを無視しないこと。調べて活動して「愛」を確認する必要がある。

志望する分野・職業を通して、あなたが創り出す未来
進学先の学びも就職先の仕事も、進路実現のための準備も、その過程…



内側からの熱い思い
何をどうしたい？ なぜ？
どうできたら幸せ？
ここは欲求の発露でもよい

愛の成就に向け努力したこと
学校生活で身に付けたこと
実際の行動があればなおよし

参考文献（研究論文ふくむ）・webサイトのURLなど

3. 出願書類編

(1) 志望動機・自己推薦書（自己PR）

進学も就職も、**出願書類は最初のサーブ**。出願書類から面接が始まるので、**出願書類の質が面接(ラリー)の内容に大きく影響**します。そして、出願書類は誰からも邪魔されずに、時と労力を注ぐことができるものでもあります。

志望分野や職業を愛していますか？ 自分を推す柱を持っていますか？ 柱が多すぎると印象は薄まります。「これで推すのだ」は1本でもいいくらいです。「あー、あの●●を研究したい受験生ね」と、後であだ名で呼ばれることになれば大勝利です。そのためには柱が多すぎてもよくありません。柱を複数にする場合は、すべての柱が接続する共通項（屋根）をしっかりと作る。テントを建てる時に柱と屋根から作るのと同じです。

なお、志望動機と自己推薦書は似て非なるものです。勘違いして同じ書き方をしてしまうと失敗します。以下にまとめてみましょう。

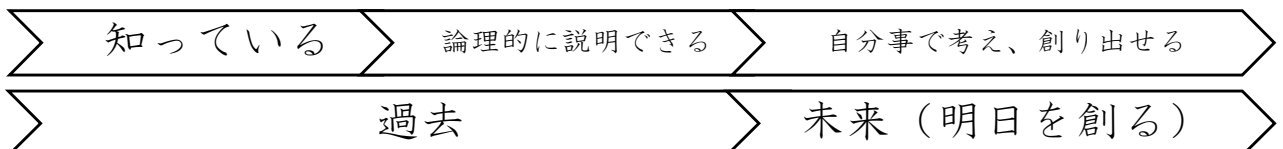
< 志望動機 >	< 自己推薦書 >
<ul style="list-style-type: none"> なぜ志望したか、を述べる。 入学・就職が叶ったら志望先で何を実現したいのか、計画を述べる。 自分の都合は「野望」。「志望」は社会を創るもの。 ラブレターにつき、よそにも出せるものはNG。 	<ul style="list-style-type: none"> どれだけ自分に適性があるかをアピールする。 APの言葉は具体化する。「社会貢献を考えています」ではなくて、具体的に何をするか、してきたかを語る。 志望動機を入れるならば「こんなに真剣に考えています…だから適性あります」 ラブレターにつき、よそにも出せるものはNG。

では、志望を深めるにはどうしたらいいのでしょうか。「明日を創る」を深めるといっても、「未来のために頑張ります」では不十分です。そこで、首都圏模試センターの「思考コード」を紹介します。首都圏の私立中高は、思考力で受験生を評価したいと考えています。21世紀に入り、多くの私学が入試を暗記型学力重視から思考力重視に変更してきました。その動きに合わせて「お受験」業界が作成したのが「思考コード」です。

パンフレットにある情報（設備やカリキュラム）を褒めてもA軸止まり。いくら論理的でも、既存の学びをなぞるだけではB軸。未来のことを自分事として語れる（C軸）ようにしよう。

変換操作	全体関係	変容3	A3 ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選び、年代順に並べなさい。	B3 キリスト教の日本伝来は、当時の日本にどのような影響を及ぼしたのか、200字以内で説明しなさい。	C3 もしあなたが、ザビエルのように知らない土地に行って、その土地の人々に何かを広めようとする場合、どのようなことをしますか。600字以内で答えなさい。
複雑操作	カテゴリズ	複雑2	A2 ザビエルがしたこととして正しい選択肢をすべて選びなさい。	B2 キリスト教を容認した大名を一名あげ、この大名が行ったこと、その目的を100字以内で説明しなさい。	C2 もしあなたが、ザビエルだとしたら、布教のために何をしますか。具体的な根拠とともに400字以内で説明しなさい。
手順操作	単純関係	単純1	A1 (ザビエルの肖像画を見て)この人物の名前を答えなさい。	B1 ザビエルが日本にきた目的は何ですか？50字以内で書きなさい。	C1 もしあなたが、ザビエルの布教活動をサポートするとしたら、ザビエルに対してどのようなサポートをしますか。200字以内で説明しなさい。
(数)	言語		A 知識・理解思考	B 論理的思考	C 創造的思考
			知識・理解	応用・論理	批判・創造

思考コード（首都圏模試センター <https://www.syutoken-mosi.co.jp/column/entry/entry000668.php>）



(2) APからルーブリックを作る

入学試験は明確な採点規準をもとに評価がなされています。大学短大専門学校は、受験生からの請求があった場合、入試の結果を開示しなければなりません。大学によっては、どの項目で何パーセントの得点率だったかまで開示してくれます。受験生の人生がかかった試験なので、公正に実施するのは当然ですよ。開示して困るような選抜はしていないのです。

では、どのようにして採点規準を作っているのでしょうか。不安に思うことはありません。どの学校も採点規準のもとにはwebサイトに公開しています。「こういう受験生を求めています」という情報…そう、アドミッションポリシー(AP)ですね。

多くの学校のAPは複数の項目から成り立っています。その項目ごとに評価の規準(ルーブリック)が作られていると考えればよいのです。さきほどの「思考コード」に当てはめると次のようになります。

思考コードA軸	思考コードB軸	思考コードC軸
APを言葉として知っている。	APの資質があれば何を実現できるか論理的に理解している。	APを自分事として捉え、未来のために行動している。

「APを知っていますか?」のような質問はありません。いくら呪文のように唱えることができても、理解や実践がなければ意味がないからです。以下は、道内国立医科大学のAPの抜粋です。これをもとにルーブリックを作るとすると、どうなるのでしょうか。

<p>【求める学生像】</p> <p>II 地域社会・国際社会への関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自らの居住地域及びその住民に対して愛着を持つ学生 ○ 自らが所属する地域共同体のみならず、国際的視野を持ち、社会全体に貢献する志を有する学生 <p>III 自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 直面する問題に対し、広く世界を俯瞰し、自らが持つ知識・技能を論理的に応用することで、的確に課題を発見し、解決しようと行動できる学生 <p>【入学者に求める資質等】</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>課題を発見し解決するための基礎となる論理的な思考力・判断力を備え、高度なコミュニケーション能力の基礎となる教養と口頭・文章表現力を持つ人</p> <p>(主体性・多様性・協働性)</p> <p>高等学校等での総合学習や課外活動などを通じて周囲の人と良好な関係を築くことができる協調性を備え、多様な人と協働するための自己分析能力や、主体的な活動の経験を有する人</p>
--

	思考コードA軸 (不十分)	思考コードB軸 (良)	思考コードC軸 (優)
地域社会・国際社会への関心	居住地域や国際社会について知識がある。	居住地域や国際社会の課題を発見し、その原因を考察している。	居住地域や国際社会の課題解決のためにできることを考え、行動を起こしている。
自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力	直面する問題について知識がある。	直面する問題の原因と解決方法を考察している。	直面する問題の原因と解決方法を考察し、自分事として捉えて行動を起こしている。
【資質等】 思考・判断・表現	口頭や文章で意志を伝えることができる。	課題発見・解決に向けた論理的思考ができる。	論理的思考を相手に伝え、協働して解決に向かうことができる。
【資質等】 主体・多様・協働	学校内で他者と協働することができた。	学校外の大人と協働し、大人が設定した活動に協力できた。	学校外の大人を巻き込み、主体的な活動を実践できた。

(3) 先輩方の出願書類

<志望理由書> ※▼は段落の変わり目

部外秘

部外秘

部外秘

ワークシート②（「愛」しい相手の望みを知る）

実際の志望校のA Pからループリックを作ってみよう。出願書類や面接への考え方が変わるのではないかな。書類はただ欄を埋めるだけでなく、面接は質問にただ回答するだけでなく、予想ループリックの上位を取りに行くやり方にも変わるはずだ。

志望校	学部学科など募集単位	選抜方法 総合・推薦・一般
-----	------------	------------------

A P（アドミッションポリシー） ※プリントアウトしたものを貼り付けよう

AP（アドミッションポリシー）

※プリントアウトしたものを貼り付けよう

ワークシート③（「愛」する理由）

志望理由のワークシート

＜メモ＞描く未来／現状の課題を分析する／現状の課題を解決する方法（改善案）／そのための学び／自分がしてきたこと／あなた（志望先）と一緒に出来ること（どのゼミで何を？）

志望校	学部学科など募集単位	選抜方法 総合・推薦・一般
-----	------------	------------------

「私」が描く未来の地図（これから創る理想的な明日、**大プロジェクト**）

①大プロジェクト実現のために解決すべき課題 （理想－現状＝課題）	②課題を解決する方法・案 （大プロジェクト実現にむけた具体的な手段）

Action：「私」の行動 （課題探究だけでなく、読書や調査も含む）	Notice：行動から得た「私」の発見・気づき （②③の根拠になるものがgood！！）
新書・選書・論文くらい読んでいますよね！	

③一つまたは複数の②のために必要な学び （これから数年かけて挑む中プロジェクト）	④あなた（志望先）と一緒にできること （どのゼミ、どの先生の下で何を学ぶ？）



間にボールを落とすのがコツ。正面だとその先生しかボールに反応してくれない。中間だと2人以上の先生が反応してくれる。前のページの例もそうですね！

だから、**あなた(志望先)以外ではダメなの！！** 15

ワークシート④（あなたにふさわしいしなやかな「私」）

自己推薦書

<メモ> A Pより、相手が望む人物／企画力・行動力・協調性・気づき（しなやかを入れる）
／根拠付きで語れること（実際の行動や努力を示すことができる）／専門の読書・調査・探究

志望校	学部学科など募集単位	選抜方法 総合・推薦・一般
-----	------------	------------------

A P（アドミッションポリシー） ※プリントアウトしたものを貼り付けよう

AP（アドミッションポリシー）

※プリントアウトしたものを貼り付けよう

A Pで求められている資質・能力	自分ができること	←の根拠となる活動

A Pで求められている資質・能力	自分ができること	←の根拠となる活動

4. 面接編

シンプルに！

(1) 志望理由と自己PRを伝える！

面接のゴールはもちろん合格です。では、面接当日のゴールは何でしょうか？ あまり多くのことをやろうとすると失敗します。いくつもの質問に対して何回も発言する機会がやってきます。すべてのやりとりは、**志望理由と自己PRの確認**と考えましょう。つまり、ここまでで考えてきた「『愛』する理由」「あなたにふさわしいしなやかな『私』」ですね！ これを出し切ることができれば面接は成功。そのためには、質問にただ回答するだけでなく、志望理由（合格後の計画）と自己PRに関連付けていく**攻める面接**をできるようになりたいところです。

面接では、これまでの高校生活や合格後のことについて質問されます。例えば、学校のことを質問されたとします。面接官は学校のことが知りたいのではなく、あなたがどのような努力をしてきたか、失敗からどのように立ち直ったか、これまでの生活からどのようなことに気づいたか、それを知りたいのです。

	これまでの努力	進路決定後の計画	未来の地図
志望理由に関係するもの			
自己PRに関係するもの			

〇〇を学んでこうしたい！
(志望理由)

◇◇をがんばってきた！
(自己PR)

〇〇をやりたい人
◇◇ができる人

理想を実現するための努力を
アピールすると効果的！！

(2) 何を「推す」か明確に！

短い時間で自分のアピールポイントを伝えなければなりません。話したいことがたくさんあったとしても、なんでもかんでも話せばいいというものではない。**話題の種類が多いと話は薄まる**。「いろいろできる人」という印象しか残らない。

出願書類編でも書きましたが、「あー、あの●●を研究したい受験生ね」というようにあだ名で呼ばれるほど記憶に残れば大成功。

あれもこれもそれも
(ドヤ！)

何やりたいかよくわからない...

自分の「推し」は
コレ！！

この人は
「コレ」の受験生！

面接官同士の話でも

(3) まっさきに質問にこたえる & 60秒くらいで簡潔に！

文章であれば、最初に理由があって最後に結論という順番は普通ですよ。でも、これが口頭でのコミュニケーションだったら…相手は最後まで結論を知らないまま理由を聞き続けなければなりません。その間、「結論はなんだろう」を考え続けることになります。けっこうなストレスですよ。それに、緊張している受験生は理由を話しているうちに、肝心の質問を忘れてしまいこともあります。「質問にこたえられない受験生」と評価されてしまいます…。

まっさきに質問のこたえ、次に理由や説明の順です。そして、短く簡潔に(60秒くらいで)まとめましょう。欲張って言葉を詰め込んでも相手には伝わりません。どんなに長くても90秒が限度です。聞きたくもないことまでべらべら話されても困りますよね。心配しなくても大丈夫。面接官が聞きたいことは質問してくれます。聞きたくなるような面接にすればいいのです。

とある受験番組の覆面座談会

話が長い受験生っていますよね

あーいるいる！

それ、話の内容おぼえられますか？

覚えてませんね。だいたい90秒くらいになるともう話きいてませんよ

90秒といえば志望動機もそのくらいです。あれもひどい。丸暗記したものを言うてくるんだけど本当かよって…

どうせ学校か塾の先生の作文ですよ。どうやって暴こうかと思いつきながら聞いてますね～

先生の「指導」は入っていて当たり前ですね。問題は、先生に言われているか、自分のものとして語っているか。質問ではそれを確認していきます。

欲張って話を詰め込まないこと！ 情報量が多くなるほど分かりやすく話すのが難しくなります。受験生は緊張しているため、論理がおかしくなることもあります。緊張している時だからこそ、簡潔に【こたえ + 理由・説明】で行きましょう。

- 【こたえ → 理由・説明】 △【理由・説明 → こたえ】
- ×【こたえ→理由・説明→さらにその理由・説明】
- ×【こたえ1→理由・説明 →こたえ2→理由・説明】 ※こたえが複数の場合
- 【こたえ1 & 2→理由・説明】

うまく話せるかもしれないけれど難しい。1と2が離れているので、2のころには1が忘れられてしまうことも…

(4) ラリーの回数を増やせ！

面接も試験なので、採点規準をもとに点数を出しているはず。面接官によって質問の仕方は異なるかもしれませんが、採点規準にある項目を一つ一つ確認する質問をします。一つの回答で時間をかけすぎると、時間が足りなくなって後半の方で深いところまで質問できなくなってしまうかもしれません。結果、確認できない項目は高得点をつけられない、ということになります。これも、短い時間でまっさきに質問にこたえる理由です。

多少早口でも構わないので、質問と回答の回数(ラリーの回数)が増えるようにしましょう。ちなみに、難関大学の総合型や推薦で合格する受験生は**ほぼ例外なく早口**です。大学の先生も頭の回転が速いので早口の人が多い。だから高校生や先生が「早口だなあ」と感じる程度ならば大丈夫。早口は全く問題ではありません。それよりも、内容や論理のほうが重要です。ゆっくりした語り口でも内容や論理がおかしいもの通用しませんし、早口でも内容や論理の欠陥はすぐに見破られてしまいます。

ラリーの回数が多いと…①回答が不十分な場合に別の言葉で質問しなおしてくれる、②「これにどう答えるかでAにする」という質問が来る、③「必ずする質問」が終わっても時間に余裕があるので**深い対話になるチャンス**が生まれる、などなどが考えられます。

<部活動・委員会活動・探究の使い方>

質問されたことにただ素直に回答すればよいというものではありません。受験先がどのような人材を求めているかを考えて、使い方を決めましょう。

【就職】指示があればすぐ行動できる。チーム全体に気を配ることができる。段取りよく仕事・探究を進めることができる。

【大学】「なぜ」を考えることができる。主体的に工夫と気づきを繰り返すことができる。突破力がある一方で「本当にいいのか？」と振り返ることができる。ちゃんと研究できる。

どうですか？ このように整理してみると、部活で身に付けたことを聞かれて「挨拶です」というのはプラスにならないことがわかります。大学の面接だったらむしろマイナスかもしれません。熱心な活動をアピールするのも考えものです。大学で部活に熱心な学生の多くは、ゼミでの活動に熱心ではありません。大学の先生(面接官)と部活は相性が良くないのです。

大学入試で努力と根性を推すのは逆効果です。実は、これは探究にも言えることで、思考も工夫も気づきもなく突っ走っただけの探究は逆効果になりかねません。内容が薄いものも同じです。推した探究の内容が薄いと「これが精一杯なんだね…」と思われてしまいます。探究を使うならば、「本当にこれでいいのか？」をもう一度よ～～～く考えてみましょう。これが深ければ、良い探究はさらに輝き、イマイチな探究だとしても面接での使い道が生まれます。

(5) 新しい面接（ワークショップ、プレゼンなど）

○ワークショップ型

課題が示され、集団で討論しながら解決策を考えます。アケビの入試でもやっていますね。

自分の意見を述べることはもちろん重要ですが、協力できているか、相手の意見を引き出しているか、それぞれの意見の良いところを取り入れているかも見られています。入試担当の方が「リーダーシップよりもフォロワーシップを重視している」と仰っている大学もあります。その大学はA Pに次のように明記しています。何を評価されるかはA Pに書いてあるんですね。

- 他者を尊重し、他者を思いやる心を持つ学生
- 多様な人々と良好な関係を築くことができる学生
- チーム医療を実践するための素養を備えた学生

授業でもグループワークを多く経験しているアケビ生は有利でしょう。気をつけて欲しいのは、ひとりで話し過ぎて「ひとりの意見」にしてしまうこと…。討論に積極的に参加しつつ、しかも解決策を「みんなの意見」に導けると良いですね！

○プレゼンテーション型

ワークショップ型のように、事前に示された課題に対する成果を報告する形式や、進学先の研究計画をプレゼンする形式があります。いずれの形式も、プレゼンに続いて面接が行われ総合的に評価されます。

プレゼン自体の評価 ≪ そのあとの面接の評価

面接官は「プレゼンに高校や塾の先生の指導が入っているのは当たり前」と承知しています。だからスライドやプレゼンがいくら上手でも「たくさん練習したんだね～」くらいにしか受け取ってもらえない。面接官は、大人に操られているだけのプレゼンなのか、受験生自身が本気で考えているプレゼンなのかを確認してきます。

プレゼンには必ず制限時間があるので要点を絞る必要があります。欲張ってすべてを盛り込んでも伝わりません。プレゼンに入れるべきこと、面接で質問してもらってから深めることに分けて考えましょう。出願書類のところでも書きましたが、良いプレゼンはそのあとの面接の流れをある程度コントロールできるのです。

提出物の例：紙資料（A4一枚様式自由など）、データ（スライドや要旨など）

5. 補足

面接にも一定の作法やマナーがあります。社会に近い志望先ほどマナーを重視します。例えば、就職試験は合格すればすぐに社会に出るのでマナー違反は厳しくチェックされます。就職率を売りにしている短大や専門学校も常識的なマナーを求めるでしょう。

でも、マナーだけでは合格しません。常識的なことができていれば問題ないので、あまり気にし過ぎないようにしましょう。試験では頭をフルに使います。マナーは空気のように身にまとい、当日はそこで頭を使わないようにしたいものです。

<服装>

ただ一点、**面接の妨げになる服装はNG**。

- パンツが見えるので深い礼ができない、礼で髪が顔にかかり礼の後で直さないといけない、など**動きが制限される服装**。
- **目立つ服装**（派手な靴下、アクセサリー）。志望と自己PRに集中してもらうために、余計な刺激や情報を増やさない。

大学受験は私服で行っても不利にはなりません。全国には私服の高校もありますから。でも、自由度が高い服装は考えること（どれを着ていこう…）が増えてしまいます。試験に集中するためにも制服が無難ですね。

<作法・礼法>

基本の一点、**複数の動作を同時にしない**。

- 「お願いします」と言いながら礼…
- 扉を開けながら「失礼します」…

丁寧な動作を心がけましょう。人によって微妙に異なるものは、気にしなくて良いルールです。ノックの回数や椅子の横の立ち位置で合否が決まるようなことはありません。

「靴下が赤だった」を理由に不合格になった人が実際にいます。「靴下が赤」をきっかけに面接官に「？」が浮かび、「心配な受験生」という印象のまま面接が進んでしまったものと思われます。赤い靴下が志望も自己PRも包み込んでしまいました…

<相手が受験生に求めているものから考える>

社会に近い志望先はマナーを重視する傾向があります。反対に、学問に近い志望先は研究を重視します。そのような**大学の面接官はマナーをほとんど見ていません**。何度も練習した礼法をやるうとしたら「いいから早く座って！」と言われた例もあります。高校で重視しがちで大学の先生が見ていないものを挙げてみましょう。

- ノックの回数、礼の角度や手の位置、椅子への座り方、言い間違い（ちゃんと訂正）
…採点規準（ループリック）に入っていると思いますか？
- 早口
…難関大合格者には早口が多い
大学の先生にも早口が多い
- ジェスチャーが入る
…すべてを言語で伝えるゲームではない
どの採点規準で評価するの？

<引用・参考文献>

- 『学習指導要領』（文部科学省、2018年告示）
- 『学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（文部科学省、2019年）
- キャロル・S・ドウエック『マインドセット』（今西康子訳、草思社、2016年）
- 石川一郎『2024年の大学入試改革』（青春新書、2021年）
- ロジャー・ハート『子どもの参画』（初出1992年、日本語訳 萌文社、2000年）

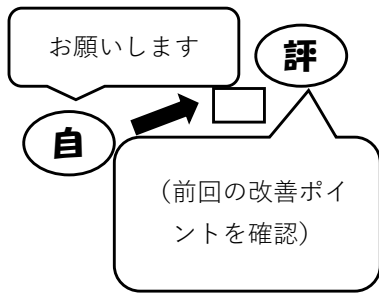
<もっと深めたい人のために>

- 神崎史彦『ゼロから1カ月で受かる志望理由書のルールブック』（KADOKAWA、2019年）
- 神崎史彦『ゼロから1カ月で受かる面接のルールブック』（KADOKAWA、2020年）
- 神崎史彦『ゼロから1カ月で受かるプレゼンテーション・グループディスカッションのルールブック』（KADOKAWA、2022年）

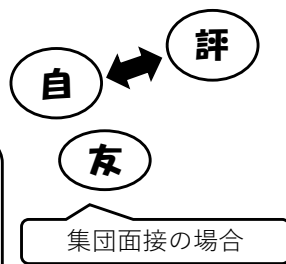
面接評価&振り返りシート

組 番

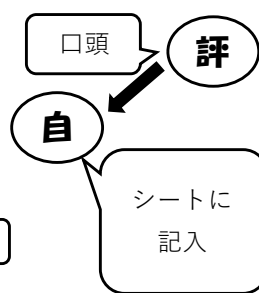
①シートのチェック



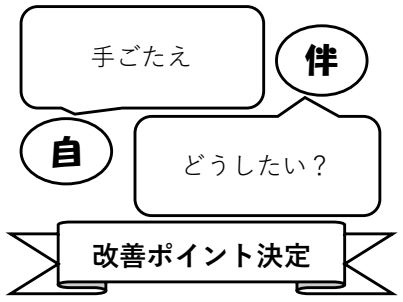
②面接の練習



③評価



④伴走の先生と振り返り



※先生以外が評価者の時は「さん」に○ ※評価はA B C Dの4段階

評価者	先生	対話によって評価を上げていく項目	評価者からのアドバイス
	さん	志望理由	
できて当たり前の項目		学問・仕事の意義	
印象		専門分野の理解	
理解力		社会貢献	
発信力		自己PR	
伴走の先生と（または個人で）の振り返り			次回の改善ポイント

評価者	先生	対話によって評価を上げていく項目	評価者からのアドバイス
	さん	志望理由	
できて当たり前の項目		学問・仕事の意義	
印象		専門分野の理解	
理解力		社会貢献	
発信力		自己PR	
伴走の先生と（または個人で）の振り返り			次回の改善ポイント

評価者	先生	対話によって評価を上げていく項目	評価者からのアドバイス
	さん	志望理由	
できて当たり前の項目		学問・仕事の意義	
印象		専門分野の理解	
理解力		社会貢献	
発信力		自己PR	
伴走の先生と（または個人で）の振り返り			次回の改善ポイント